

会報

安曇人

安曇誕生の系譜を探る会

CONTENTS

- 1 安曇族のルーツを訪ねて～福岡志賀島・博多どんたくへ… 濱 昭次
古代安曇の謎とロマンへ一層精進しよう! …… 会長 金井 恂
- 2 明るく充実した会の運営のために! …… 役員補充と事務局体制強化
安曇野の歴史部会:安曇野の大地に眠るロマンに挑む …… 部会長 小林 幹 胖
- 3 安曇氏族部会:安曇氏族部会の紹介 …… 部会長 古川 幸 男
安曇ゆかりの地部会:綿津見神がとりもつ縁か? …… 部会長 金井 恂
- 4 あづみ・しかネットから寄稿
「安曇あづみの会」の成り立ちについて …… 代表 霜降 利 男
編集後記
再び歴史を学ぶということについて …… 編集委員長 本郷 敏 行

発行:安曇誕生の系譜を探る会 発行責任者:金井 恂 編集委員長:本郷 敏行 事務局長:浅川隆 〒399-8304 長野県安曇野市穂高柏原3612-3



▲博多どんたくパレードに参加



▲博多どんたく東区演舞台で記念撮影

安曇族のルーツを訪ねて～福岡志賀島・博多どんたくへ …… 濱 昭次

昨年「全国安曇族サミット」を安曇野市に於いて開催した折、福岡県東区のNPO志賀島歴史研究会のメンバーを中心に70名近い方々が遠路参加された。特筆すべきは、当選間もない高島福岡市長が団長として参加された事であった。そこで安曇野市長と高島福岡市長との会見が実現し、今後一層両市の交流事業を活発に推進して行く事で合意し、5月2日から4日に開催された博多どんたくへの参加要請を受けたのであった。安曇野市としても、その要請に応えるべく市民から広く参加者を募り穂高神社小平宮司を団長として50数名が参加した。

到着した博多駅の駅前広場では地元RKBのテレビクルーが我々の取材の為にスタンバイしており、その歓迎振りは一言では言い表せないものがあった。先ず向かったのは安曇族とゆかりが深い志賀島の志賀海神社であった。境内では奉納太鼓の演奏をしてくださるなか全員本殿でお祓いを戴き、四年ほど前急逝された阿曇宮司の妹さんが歓迎の言葉を述べられた。安曇誕生の系譜を探る会のメンバー全員が何の違和感も無くその歴史の中に溶け込んでいるようだった。それは、例えば島内の金印が発掘された場所やゆかりの地等に案内されて説明を受け聞き入っている様子からもうかがい知る事が出来た。

夕刻博多に戻り安曇野市長一行と合流し、福岡市の職員も出席された夕食会で翌日の東区イベント並びに博多どんたくへの出演・出場の成功を皆で誓った。

会場では、安曇野市から持参した特産品の販売は大人気でアツという間に完売も出ていた。博多どんたくメインイベントでの安曇野市からの参加は、にわかづくりなところもあったが、明科地区を中心に結成し活動している「ファイティング・バキラ」の皆さんの頑張りとお安曇野市のゆるキャラぬいぐるみの頑張りに、NHKの朝ドラ「おひさま」効果もあり大変な声援を頂いた。世界何カ国の参加もありメジャーな催しであることを実感した。博多どんたくは、直接安曇族とは関係ないにしろ例年志賀島にて行っていた「金印まつり」シンポジウムが、今年は博多市内で開催される事からも福岡市が本腰を入れて取り組んでいる姿がうかがえる。

本会としても、ゆかりの地全体を見据えた中で福岡市との関りを今後どの様にしていくのか会のコンセンサスを図る必要があるし、行政主導で交流事業を推進して行く事に異論は無いが地理的ハンデイも大きく、その基本的フレームを明確にする必要がある。その中で本会の関わり方も自ずと見えてくるのではないかと思う。元々東区との中学生交流があったとはいえ、今回の福岡市長迄も動かした契機は、「安曇族サミット」だった事は事実であり無関係であることはできない。基本に返って見ても、九州にはまだまだ私達の歴史研究材料は沢山在りそうだ。

従って歴史勉強過程の中に福岡の地が在ると考えれば余り肩苦しくなく参画していけると思っている。

古代安曇の謎とロマンへ一層精進しよう! 会長 金井 恂

本日は安曇誕生の系譜を探る会の第6回定期総会にお集まりいただきましてありがとうございます。

本会は、すでに4年を経過して5年目に入っています。この間、本会の活動内容は活発になり、会員数は増え、活動の範囲も広がっております。昨年は全国の安曇族ゆかりの人々を安曇野市にお招きして、全国安曇族サミットを開催しました。歴史シンポジウムには総勢633名という大勢の参加者がありました。このように本会の活動は、安曇野市の多くの人々の間で注目される活動となり、認知度は高まっております。そして全国の安曇族ゆかりの地との交流の輪も広がってきております。

本会では、安曇の古代史を探ることを基本テーマとしております。その延長として、安曇族の問題にぶつかっております。安曇郡の設立と安曇族は強く関係しています。安曇郡の設立の状況を明らかにするためには、安曇族の由来を明らかにすることが必要不可欠です。

安曇族は、弥生時代には北九州の福岡付近で大きな勢力を張っていました。海との関わりが強く、海人族ともいわれています。その安曇族がいつ、どこから、なぜ、山国である安曇平へやってきたのかということは、安曇の古代史の謎であり、ロマンです。

安曇族の実態は謎に包まれており、その実態はあいまいなままです。私たちはその謎とロマンを少しでも探る

うとして勉強会を続けています。全国に分布する安曇族ゆかりの地がどこに、どれだけあるのかということ、そしてその地における歴史、風土、伝統文化等の情報を調査し、安曇族が安曇平へ進出してきた経緯を明らかにすることは重要なことです。

安曇族が安曇平へ進出してきた時代については、いくつもの説があり明確ではありません。しかし、弥生時代中期から古墳時代にかけての時代であると思われます。安曇平における考古学的遺跡等の調査勉強をおこない、安曇族の痕跡を探ることも重要なことです。

私たちは安曇の古代史についてさまざまな角度から調査勉強し、それらの成果を安曇野市民へ発信し、地域と関わり合いながら活動していくことが望まれます。そして全国に多数分布する安曇族ゆかりの地との交流についても、安曇野市民と共に広げていくことが望まれます。昨年の安曇族サミットに多くの安曇野市民が参加してくれたことは、そうしたことを意味していると思います。

私たちの課題は、安曇の古代史についてより一層の勉強をすること、そして安曇族ゆかりの地との交流を広げることだと考えます。その課題に向かって進んでいきたいと考えます。本日の総会ではそうした点を踏まえて、今年度の活動について活発に論議していただきたいと思っております。(第6回総会における会長挨拶より)

明るく充実した会運営のために！ = 役員補充と事務局体制強化 =

平成24年度役員・委員(任期:平成25年3月31日)

役職	氏名	企画運営委員会	事務局担当	部会長
会長	金井 恂	委員		ゆかりの地部会
副会長	本郷 敏行	委員		
副会長	丸山 祐之	委員		
会計	千国 寛一	委員		
監事	小穴 金三郎	委員		
監事	池上 勝三	委員		
幹事	浅川 隆	委員	事務局長	
幹事	有賀 裕司	委員		
幹事	金井 透	委員	組織	
幹事	小林 幹胖	委員		歴史部会
幹事	小松 宏彰	委員	記録写真	
幹事	津留 芳子	委員	会計補佐	
幹事	濱 昭次	委員		
幹事	平瀬 孝子	委員	会計補佐	
幹事	古川 幸男	委員	部会	氏族部会
幹事	松尾 宏	委員		
幹事	松森 幸一	委員		
幹事	望月 新一	委員	事務局次長	
	平林 厚美	委員	部会	

(委員・事務局・部会長は会長の指名委嘱による)

第6回総会で年会費増額案が修正となり、企画運営委員会に一任され6月2日の企画運営委員会において下記のとおり決議いたしました。

平成24年度予算

(自:平成24年4月1日 至:平成25年3月31日)

収入予算額 520,763円
支出予算額 520,763円
差引繰越額 0円

[収入の部]

(単位:円)

科目	前年度決算額	予算額	増減額	摘要
年会費	143,000	260,000	117,000	@2,000×130人
賛助会員費	—	100,000	100,000	
広告料	0	100,000	100,000	
寄付金	100,000	0	△100,000	
雑収入	135,872	0	△135,872	
前期繰越金	33,668	60,763	27,095	
合計	412,540	520,763	168,223	

[支出の部]

(単位:円)

科目	前年度決算額	予算額	増減額	摘要
印刷製本費	2,780	200,000	197,220	会報2回発行他
通信費	13,560	70,000	56,440	
会費	1,000	1,000	0	わの会会費
部会活動費	—	150,000	150,000	@50,000×3部会
講師謝礼	—	25,000	25,000	講師3人
消耗品費	1,912	50,000	48,088	
雑費	1,560	10,000	8,440	
その他	330,965	0	△330,965	
予備費	0	14,763	14,763	
合計	351,777	520,763	168,986	

安曇野の歴史部会

安曇野の大地に眠るロマンに挑む

部会長 小林 幹胖

古来、時の長短を問わず歴史を有しない民族はない。我々日本人の先祖が日本列島に住みついたのは約二万年前といわれているが、その内文字による事実が歴史として確認されているのは1600年くらい前から以降でしょうか。それ以前も人は住んでいたのです。ただ文字を持たなかっただけです。我々の祖先である安曇族といわれる人々も又同じです。

今、私達が立っているこの安曇野の大地の下には先祖の築いた悠久の歴史がロマンを秘めて眠っております。私達はこの歴史を学ぶため、まず安曇平の歴史を探ることとし市内5地域の町村史を基にして一つの歴史年表にまとめました(昨年のサミットの折に発表したものです)。次に稲作のルーツを調べれば安曇誕生の系譜が見えてく

るのではの期待から「古代安曇郡の稲作について」をテーマとして学習会を開いて来ました。しかし乍ら稲作に特定すると文献史料も乏しく、又稲作だけでは「安曇の歴史」は見えてこないことも理解し、別の切り口で安曇の歴史に取り組むことにいたしました。尚、今までの成果は年表に追加したり、実績は記録に残し保存していくことにいたしました。これからは史跡、地名、言語、祭祀、統治機構など多角的に人間活動の所産としての史実をもとに安曇族といわれる人達の痕跡を探りたいと思っています。我が部会の基本方針は同好の志の集まりでありますので、他の意見を排したり、我が意を強要したりしないことです。みんなで楽しく学んで行きたいと思っています。大勢の方の入部をお待ちしています。

安曇氏族部会

安曇氏族部会の紹介

部会長 古川 幸男

安曇氏族部会は、本会の中でも安曇氏族研究に特化した部会です。現在、部会員は約20名で毎月1回勉強会を開催し、考古学・歴史学・宗教学・民俗学等を通じて勉強を進めています。今年度一杯は「基礎篇」としまして安曇氏族とその周辺の基本的な事柄についての学習を中心に講師の方に講義や話題提供をいただき、その後参加者でディスカッションして理解を深めていきます。

今後は、徐々にレベルが上がっていきますが、初心者の方からエキスパートの方まで楽しめる部会になっていますので、皆様の参加をお待ちしています。



安曇ゆかりの地部会

綿津見神がとりもつ縁か？

部会長 金井 恂

活動内容：全国の綿津見命神社に関する調査
 ■調査の趣旨：安曇郡は安曇族の氏族名を持って設立されたと言われており、安曇平の古代史を明らかにするためには、安曇族の古代における実像を明らかにすることが必要不可欠である。安曇族の実像は謎の多いあいまいなままであるが、弥生時代において福岡市の糟屋郡安曇郷・志珂郷(志賀島を含む)地域で活動しており、そして弥生時代前半頃から日本列島を東方へ進出・移動して行き、やがて日本中に分布し定着したと考えられている。その定着した地は安曇族ゆかりの地と言えるのであるが、そこも現在ではあいまいになっている。安曇族ゆかりの地の存在と分布が判明すれば、安曇族が福岡市地域から安曇平へ辿ってきた時代とルートを解明する重要な手がかりとなると考えられる。またその地における安曇族の生活状態を推測することができれば、安曇族の能力や特性を知る手がかりとなる。安曇族は綿津見命を祖神として祭祀する氏族と言われている。「綿津見命」神社の所在地

がすべて安曇族ゆかりの地であるとは言えないとしても、安曇族と何らかの関わりがある地域であると考えられる。その他の情報は、安曇族の実像を知るための重要な手がかりとなる。「綿津見命」神社が全国に820社あることが分かっており、その名前と所在地のリストができています。これからそのリストに基づいて、その神社がいつの時代に・誰によって・どのような事情で創建されたのか、祭祀はどのように行われているのか、そしてその地域における安曇族との関わりはなにかということを調査する。調査対象の神社は全国に分布しており、多数あり、調査には長期間かかると推測される。事前に調査項目・内容を明確にしたうえで、これまでに連絡の取れているゆかりの地や全国安曇族サミット参加者たちにも呼びかけて協力をお願いする。この共同調査を通じて、安曇族ゆかりの地との交流を深め、さらに新たな地域との交流を広めることを期待する。現在部会メンバーを募集しています。ご参加をお願いします。

あづみ・しかネットから寄稿

「安曇あづみの会」の成り立ちについて…………… 代表 霜降 利男(滋賀県高島市)

滋賀県高島市安曇川町の生い立ちは、この地が「琵琶湖」の西に湖西最大の河川・安曇川が生んだ肥沃な大地の上に広がることから始まります。まず、最初にこの土地に定着したのが、安曇族海人でした。彼らは古代、日本海・若狭ルートを経て近江へと至り、新しい大陸の技術で次第に勢力を拡張していき文化を伝えたと言います。その歴史は奥深く、定説として確立されたものではなく、今日まで取り組みがされて来たとは言えないものであります。また、平成17年1月1日には、6町村が合併して高島市となり、より安曇川の地名が薄らぎつつあるものです。

私は、平成22年7月に御地で開催されました。第1回「安曇ゆかりの地との交流会」に参加をさせていただき、

よりこの地名の存在価値の偉大さを思い知りました。そこで、何とか組織の立ち上げをと思い11名の賛同者と平成22年8月23日に「安曇あづみの会」を立ち上げる事が出来ました。この会の目的は、安曇川地域の地名・歴史を学び、海人・安曇族のゆかりの地を訪ね、文化・産業・観光の交流に結びつける事としております。現在丸2年が経ようとしていますが、組織活動は各年3回の学習事業活動を実施してきています。貴会のような活発なる展開にはほど遠いものがありますが17名の会員が地道な自主的活動の研鑽を積み重ねていきたいと考えております。

どうか今後とも私どもの会に温かきご支援・ご協力をお願いして当会の状況報告とします。

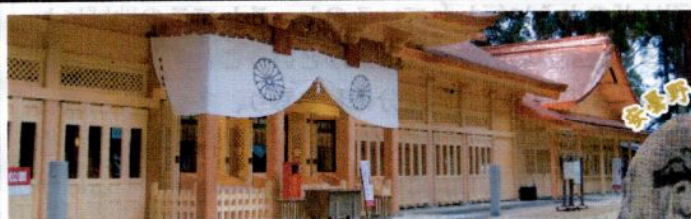
編集後記

再び歴史を学ぶということについて…………… 編集委員長 本郷 敏行

ひと口に歴史といっても、歴史にはいろいろあります。今、私達が学んでいる歴史は、日本の歴史の中の古代史でありその中の信濃安曇の歴史であります。私達の住むこの安曇はどのように誕生したのか。誰が中心となって開拓したのか。その史料は乏しく、謎とロマンに満ちています。人類の歴史は悠久です。とても一筋縄では解けるものではありません。歴史学(文献史学)、考古学、人類学、言語学、神話学等々あらゆる学問の領域に関係してきます。私達素人集団がとても広範に亘って資料を集めこれを検証することはできません。私達に許されるのは推論することであり、ただし、この推論は一貫性があることと個々の事象と全体の関係が明らかであることが条件となります。今、私達は「人の動き・結びつき」「人の生活の痕跡(狩猟・採集)進歩の足跡」「他地域の人々との繋り」の三部会に分かれて勉強を続けています。私達には科学的証拠を探すことはまず不可能と思われ、今私達が出来るのであれば、すでに専門家が立証しているでしょう。私達は少しでも自白証拠、状況証拠、物的証拠に近いものを選び、私達のロマンを歴史に近づけた

い、仮説安曇古代史をつくりあげたいと願っています。私達はいかなる説も否定するものではありません。

これは私達の会の理念であり今後も変わるものではありません。私達の会は任意の市民団体です。会員の意志を尊重するのが基本ですから一層会の充実した運営に努めるのみです。幸いいくつかの課題も見えてきました。永い人間の歴史について短時間で結果が見えてくることなどありえません。丹念に先人の研究を学びながら、そこに何が記されているのか、正しく読み解き、理解して推論を積み上げて行くしか方法はないでしょう。日本人は日本語という素晴らしい言語をつくりあげました。計り知れない文献の中に世界に誇れる人間の心性が記録されています。これだけを見てもとても安易に歴史など語れるものではありません。しかし私達はその中に歴史の真実を見つけ出し少しでも古代安曇人の心の響きを聞きたいと願っています。素人が歴史を学ぶというは大変な労力と忍耐が必要です。大勢の会員の方の声を反映した楽しい会とするよう運営して行きたいと願っています。皆さんのご意見・ご提言を是非お願いいたします。



安曇之祖神 穂高神社

安曇野市穂高6079 電話 0263-82-2003 <http://www.hotakajinja.com>



穂高人形飾物と道祖神展

資料館 御船会館 電話 0263-82-7310



安曇誕生の系譜を探る会

会報発行：平成24年9月

事務局：〒399-8304 長野県安曇野市穂高柏原3612-3 事務局長 浅川 隆
Tel.0263-82-4056 Fax.0263-82-7247 E-mail:asakawa.takasi@lapis.plala.or.jp